

受 講 案 内 詳 細

グループスーパービジョンC

講師 助川 征雄 先生（聖学院大学・大学院 客員教授）

【講師略歴】民間精神科病院、神奈川県（精神保健福祉士）勤務。1977、1987年に英国留学。主に精神障害者の地域生活支援、および英国モデル研究と応用に従事。現在は、田園調布学園大学および聖学院大学人間福祉学部・同大学院教授を経て、聖学院大学名誉教授。総合研究所・スーパービジョンセンタースーパーバイザー。

（注意）2月の開催日が変更になりました。

開催日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			21日	19日	23日	20日	18日	15日	20日	17日	21日 28日	13日
開催時間	19時00分～21時00分 第3金曜日（8月は第4金曜日、3月は第2金曜日）開催											
会場	家庭クラブ会館（JR新宿駅南口 徒歩8分）											
対象者	経験年数4年以上の方 注：認定医療社会福祉士のポイントを申請される方は、 <u>欠席・遅刻・早退</u> がありますと、証明書は発行出来ない場合があります。											

～助川 征雄先生より～

【実践に役立つ新たな視点や技法（地域包括時代のSWの役割、望ましい対人支援のありかた）】

このGSVでは、参加者の自由な発言や体験交流を大切にしたいと思います。特に医療機関という高度な技術やサービスが期待される職場ならではのご苦労があると思います。多職種とともに働く喜びと同時に、そのような場において、ソーシャルワーカーは何をなすべきかという、「役割をはたすための様々な工夫や苦心」が多々あると思います。それらを忌憚なく自由に吐露できる場にぜひできたら良いと願います。ソーシャルワーカーは、その働きの中心に「生活支援」を大事にしてきました。しかし、少子高齢化や社会格差など、生活環境の複雑化が加速しています。また地域包括支援方針のもと、医療保健福祉ニーズがますます多様化し、現場は、さらなる負担を余儀なくされているのではないのでしょうか。しかし、これらの医療の高度化や地域化の中、「病者・障害者としての対象化」ではなく、クライアントの生活支援やささやかでも、夢や希望の実現によりそう、身近な相談援助者としての役割が一層重要になってくるのではないのでしょうか。それは、「**アナログ的で人間的なかかわり**」を大切にし続けるということにほかなりません。

GSVは自由な発言と自己開示の場です。今回もまた私は、これまでの経験をもとに、率直かつ柔軟にこの場に臨み、様々なご経験に耳を傾け、苦楽を分かち合い、専門職としての未来への夢や希望を語り合いたいと願うものです。

なお、GSVの参加者は9名程度とし、毎回順番に1事例を提出していただき、次回の事例提出者に司会進行をお願いしたいと思います。

時間配分は、事例報告に40分程度、その後、約1時間余自由討議をお願いしたいと思います。事例発表にあたっては、原則として、クライアントの了解を得て、資料表記は匿名でお願いします。また、下記参考文献をご覧ください。GSVへご参加くださるようお勧めします。

参考文献	助川征雄；ふたりぼっち（精神科ソーシャルワーカーからの手紙 ～新書）・万葉舎2015 助川征雄；（福祉の現場で役に立つ）スーパービジョンの本：河出書房・2012 柏木昭、佐々木敏明；ソーシャルワーク協働の思想：へるす出版・2010
------	---

～昨年度の受講者の声より～

◆とてもサポートタイプで安心できる場でした。「かかわり」に目を向けながら自分自身のことも振り返ることができました。

◆種別の異なるメンバーが集まり、医療や地域の現場の実情や様々な視点でトーク出来たことが有意義でした。

◆「人生の主人公は本人」という先生の言葉を忘れず心に留めながら、クライアントと向き合っていきたい。